２０１８年（平成３０年）５月２３日　水曜日
東奥日報　１５面　掲載

春季県高校野球選手権第3日は22日、八戸市長根公園と六戸メイプルの2球場で準々決勝4試合を行った。弘前工は9回裏2死から盛が左中間スタンドに2点本塁打を放ち、7−6の逆転サヨナラ勝ちで大湊を下した。八学光星は七回に4点を加え、4季連続優勝の青森山田を8−1の七回コールドで圧倒した。青森は粘る百石を振り切り11−8で勝利。弘前東は9−0の七回コールドで三本木に快勝した。大会第4日は26日、八戸市長根公園で青森−弘前東、八学光星−弘前工の準決勝を行い、勝利した2校は東北大会出場が決まる。（本紙取材班）

春季 県高校野球

第３日

青森×弘東
光星×弘工
4強 26日激突

強豪対決 光星が圧倒

山田高、コールドで敗れる

▽準々決勝（八戸市長根公園）

青森山田	0	0	0	0	0	1	0	1	
八学光星	0	0	0	1	3	0	4×	8	（七回コールド）

（青）堀田、東谷、今、三木、小牟田−工藤
（八）福山−秋山
▽二塁打　下山、東（八）
▽捕逸　工藤（青）

【評】八学光星は四回、6番下山が中越え適時二塁打で先制。五回には4番東が満塁で走者一掃の右越え適時二塁打を放ち3点を挙げ、七回にも夕メ押しの4点を加えた。先発福山は五回まで三塁を踏ませず1失点で抑えた。

青森山田は先発堀田が四回に捕まると後続の投手陣も流れを止められなかった。打線も投手陣を援護できずコールド負けを喫した。

【青森山田−八学光星】
5回裏、八学光星2死満塁、東が右越えに走者一掃の適時二塁打を放ち4−0と引き離す＝八戸市長根公園

エースと主砲躍動 光星

県内屈指の強豪校対決、勝ちで青森山田を圧倒。公式戦では4大会ぶりとなる勝利に、仲井監督は「負け癖を払しょくするには勝つしかない。チームにとって大きな一勝」と喜んだ。

エースと主砲が力を発揮した。4番東は五回2死満塁で右越え3点適時二塁打を放ち青森山田の2番手東谷を攻略。「インコースの真っすぐでカウントを取りに来るのは分かっていた。データ通り」と流れを引き寄せる一打を自画自賛した。

投げては主戦福山が最速144㌔の直球を武器に五回まで三塁を踏ませぬ好投。味方の好守にも助けられ、7回1失点にしのいだ。2年時に打ち込まれた経験から「リベンジしたかった」とマウンド上では気迫の投球。「今日は仲間に助けられた。勝敗は紙一重。夏に向けて切り替えていく」と冷静だった。（高松拓輝）

【八学光星】

	打	安	点	振	球
③ 近藤	3	3	1	1	1
⑥ 武長	3	1	1	1	0
⑧ 東	3	2	2	0	1
⑦ 野村	3	2	1	0	0
⑨ 山袋	3	2	1	0	1
⑤ 山口	3	2	1	0	0
④ 矢下	2	1	0	1	0
② 島	3	3	1	0	1
① 秋福	3	3	1	0	1
投 福山	3	1	0	1	0
計	29	20	8	4	5

	盗	失	併	残
	4	0	0	7

東奥日報社提供
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです